



トヨタ救急車HIMEDICのカットモデルです。

モーターショーに展示するものではなく、救急救命士の処置拡大に伴う新たな訓練用の教材になります。

素材は本物の救急車ですが、中古車を使用してカット改造を行うことで費用の低減に繋げております。この事業のために弊社では、古物商の許可を取得しました。

屋内設置のため、なるべく設置スペースを占有しないようにしたいとのご要望から、運転室もカットしバックドアも外して全長を短くしてあります。

天井部は右側を残して大きく切り取り、左面窓ガラスも取り外して車外から訓練の様子が観察しやすいようにしてあります。

これにより患者室内灯が半減してしまいましたが、カットモデルの直上に屋内灯を設置して頂いたので、車両の患者室は明るいです。

ルーフのカットラインは、見栄えが流美になるようになるべく曲線でカットしました。（左図は製作中の画像）

切った跡の処理が難しいですが、ここは職人さんの匠の技で対応します。

左側の窓部もガラスは外しただけではなく、端面を平滑に作り直してあります。

外装は全塗装し直し、まるで新車のように綺麗です。



右壁面の医療機器レイアウトは、一般的な高規格救急車の仕様にならない、前から 吸引器部、心電図モニター部、呼吸器部、除細動器部 のレイアウトです。



心電図モニターは、DART Simのため、iPad が収まる台を製作しました。

除細動器部は、今後、長年に渡り使用することを考慮し、で専用の形状は無く、汎用性を持たせた形状で製作しました。





室内です。

床面は、明るい色に張替えてあります。また、座席部は、防振架台の水色に合わせて低ライトトーン値の水色に張り替えました。全体的に明るく、爽やかな感じになります。



左前の自動心マ器収納庫は新たに製作して設置しました。扉開放時に間口が狭くなったり、ロックが出っ張らない形状にしてあります。ソフトケースの出し入れに引っ掛かりがありませんし、心マ器のケースの出し入れ時にキズが付き難い形状で作りました。

←

↓カットモデルとはいえ訓練の右側は講師からは見え難くなりますので、前後にW-iFiカメラを前後に設置しました。学生さんにとっては誤魔化しが効かなくなりますね。

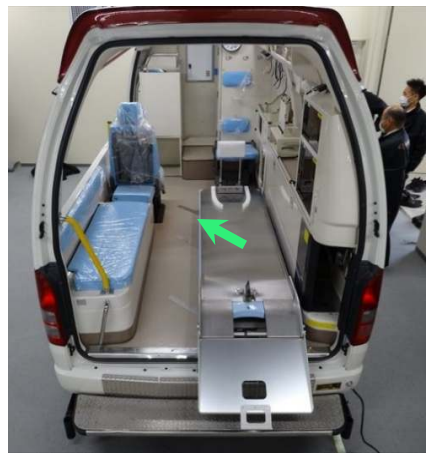


「全てのストレッチャーを触らせて訓練させたい」そんな講師の意向を叶える目的で、防振架台は新型のVCS-03に換装しました。設置はボルトオンなので、楽々です。

<https://akao-co.com/products/2860/>

これ一台で全てのストレッチャーに対応可能です。

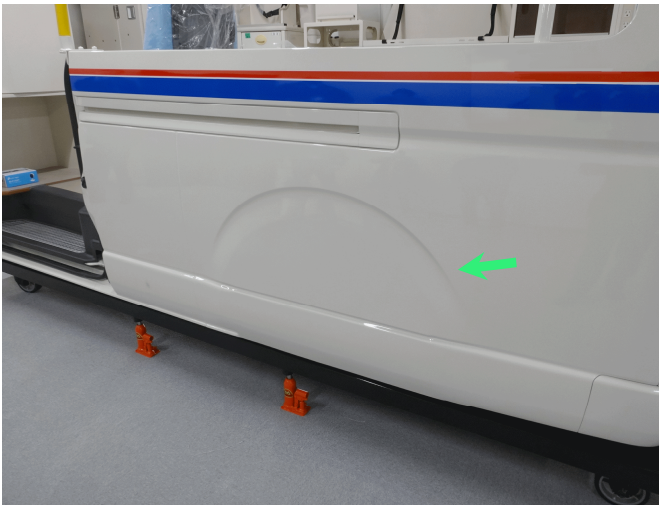
全てのストレッチャーに対応出来るようにするため、反転スロープは、ロング仕様（オプション）にしました。



↑ 防振架台VCS-03が斜めにスライドする様子です。
 ストレッチャーの右側と同時に後方にもスペースが
 広がって行くのがお解り頂けます。
 これにより研修生は患者の周囲四方を自由に動き
 前後左右からの処置が可能になります。
 スライドロックは、多段階です。



座席部は、防振架台の水色に合わせて低ライトトーンス
 値の水色に張り替えました。
 全体的に明るく、爽やかな感じになります。

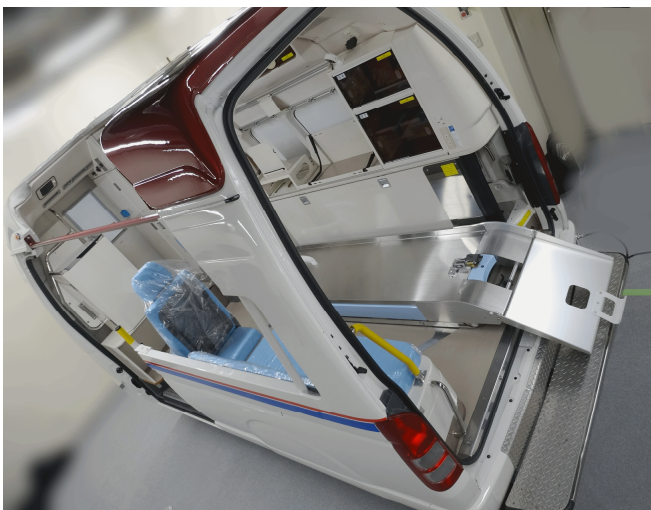


タイヤも外してほしいとのご要望でしたので、
 板金で塞いであります。

元々このような形状だったかのような自然なデザインです。
 職人による板金技術が光っている部分ですね。



←搬入設置は大変でした



<終わりに>

HIMEDICのカットモデルは、非常に珍しいと思います。
 UZH132S型が、東京消防庁の学校に一台。
 VCH32S型では、カット改造はされていませんが扉を外して
 それらしい形状になったモデルが秋田県消防学校に。
 TRH226S型では、今回の学校が初ではないかと思えます。
 この学校自体が愛知県にありますので、是非トヨタ救急車で
 作りたい、というのがお客様のご要望でした。

カットモデルは設計図よりは、職人の匠技に頼る部分が多く
 作れる職人が減っているのが難題ですが、今回の車両を手掛け、
 新たな若い職人さんが育って居ることを嬉しく思いました。